

ANNUAL REPORT

2024

活動報告書



すべての子どもたちが未来にときめく社会に
NPO 法人ターサ・エデュケーション

代表理事よりごあいさつ

日頃よりご支援・ご協力いただいている皆様には、大変お世話になっております。
NPO法人ターサ・エデュケーションの市村でございます。

今年度は、不登校やひとり親家庭等、私たちの支援対象となる児童のべ4,353名に対し、居場所や学習機会の提供を行うことができました。これは昨年度(2,557名)と比較して大幅に増加しており、支援の必要性がさらに高まっていることを実感しております。

特に今年度は、ひとり親家庭に属する不登校児童生徒への取り組みを基に支援マニュアルを作成しました。支援の方法を言語化し、蓄積することにより、誰が関わっても一定の品質を保つ支援を行うための土台を整えることができました。

また、新たに明和町から委託を受け、生活に困難を抱える子どもを対象とした「こどものいえメイプル」の運営を開始しました。放課後や長期休暇中の居場所として、食事や生活リズム、学習面のサポートを行う事業であり、地域における包括的な子ども支援の一つのモデルとなり得る取り組みです。

一方で、事業の拡大と多様化により、現場スタッフ一人ひとりの業務負担が大きくなり、運営全体を横断的に支える体制の不足が課題として浮かび上がりました。特に複数の拠点をもたぐ支援の調整や情報共有、支援記録の整理・活用といった中間支援的な機能の必要性を強く感じています。限られた人員の中で事業を展開していくためには、業務の効率化や体制整備が急務です。

こうした新しい取り組みに挑戦できるのも、寄付やボランティアをとおして私たちの活動を支えてくれる皆様のお陰でございます。これからも一人でも多くの子どもたちが笑顔になり、巣立っていくための支援に粘り強く取り組んでいきますので、今後とも活動へのご理解と変わらぬご支援をお願いいたします。

NPO 法人ターサ・エデュケーション 代表理事 市村ただみつ

群馬県前橋市で生まれ、母子家庭で育つ。山梨大学教育学部卒業後、高崎市役所子ども家庭課で児童福祉業務に従事し、母子家庭を取り巻く課題の深刻さを痛感し、2015年NPO法人ターサ・エデュケーションを設立。群馬県内でひとり親家庭や不登校の子どもたちへ居場所と学習機会を提供する活動を展開。



ANNUAL REPORT

2024 index

- 01・02 ごあいさつ・index
- 03・04 私たちが取り組む課題
- 05・06 職員紹介 ～現場からの声～
- 07・08 SAMEBOAT
- 09・10 こらんだむ
- 11・12 メイプル
- 13・14 ハンズ・その他事業活動
- 15・16 メディア掲載・スナップフォト
- 17・18 仲間募集・会計報告



ISSUE

子どもが**孤立**することで、
意欲格差・自己効力感喪失してしまうこと

子どもの貧困率

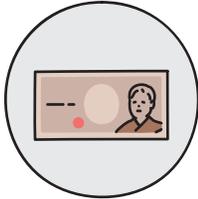
11.5%

世帯年収に伴う
体験格差 **3倍**

子どもの貧困

世帯年収に伴う
学力格差

20%の開き



不登校

つながりが無い

38.2%

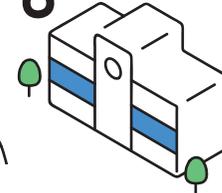
学校外の機関(フリースクール等)を利用して
出席認定を受けた

10.9%

不登校
児童・生徒数

35万人

前年度から
約15%増加



社会的養護

4.6万人

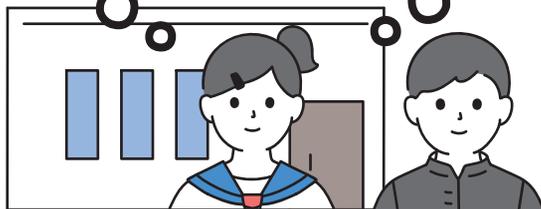
大学進学率

2.9%

社会的養護

里親委託率

22.8%



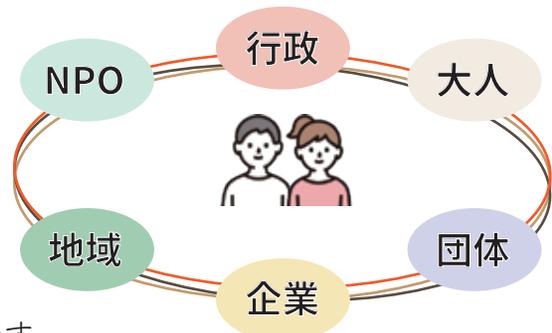
VISION

すべての子どもたちが 未来にときめく社会に

すべての子どもが自分の可能性を信じ、
未来の自分に期待できる社会をつくること



子どもの支援は未来への投資の考えのもと、
行政や企業、個人や団体問わず、
子どもを中心に置いた支援の輪が生まれ、
子ども一人ひとりが自分に自信を持ち、
自分の身の丈にあった人生選択を
行い、健やかに育つことができる
仕組みをつくる。そして、その先の未来では
受益者が担い手になり、将来にわたって
支援の輪が持続する好循環社会を目指します。



MISSION

子どもの可能性を みんなでフェアにする

みんなで、社会で、子どもそれぞれに必要な支援環境を整備する

01 まずは、直接支援

課題のある目の前の子どもたちに居場所や学習機会を提供し、子どもたちの自己肯定感や意欲、能力を育む

02 求む、支援の共犯者

情報発信や講演活動を通じて、課題の理解者や共感者を募り、支援の担い手を増やす。

03 みんなで協育

関係人口を増加させ、支援品質を高めるとともに支援範囲を広げ、より多くの当事者へ支援を届ける

04 未来のために。社会全体で子どもを育てる。

社会全体で子どもの支援に取り組む仕組みをつくり、どんな環境や状態においても、すべての子どもたちが未来にときめき、生きやすくなる社会へ



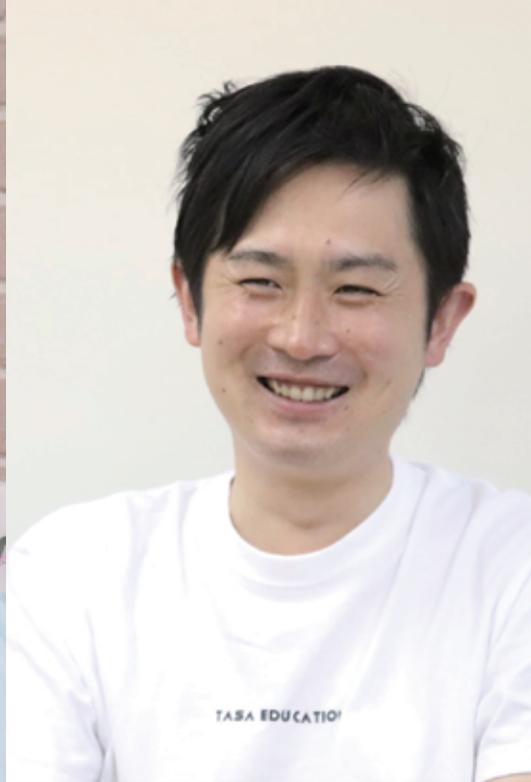
中村 優実

こらんだむ責任者



渡辺 瞳

メイプル責任者



市村 均光

代表理事

多様な背景にある子どもたちの「いま」を支える

Staff Interview

——現場スタッフに聞く

「ここなら大丈夫」と感じてもらえる居場所を目指して——。

多様な背景をもつ親子と日々向き合うスタッフに、子どもたちの現状から現場で大切にしている姿勢、継続的な支援のしくみを伺いました。等身大の声から、支援の現状をお伝えします。

Question

1

どんな困りごとを抱えた子どもたちが来所しますか？
日々どのようなサポートを行っていますか。



市村



中村

主な相談内容は、不登校や社会性の未発達、生活リズムの乱れへの不安などです。小学校低学年から中学生まで幅広い子どもが来所していますが、特に低学年で登校しぶりに悩む保護者からの相談が増えています。こらんだむ前橋校・太田校では、年間で100件を超える問い合わせ・相談を受け、延べ400人以上の子どもたちを支援しました。子どもが安心して過ごすためには、保護者からの情報が欠かせません。そのため、十分なヒアリングを行い、保護者が「ここなら安心して子どもを任せられる」と感じられるよう、一人ひとりに丁寧に寄り添っています。保護者が安心して話す姿を見て、徐々に自分の気持ちを言葉にできる子どもも多くいます。私たちは、親子が安心して相談できる居場所であることを何より大切にしています。不安そうな表情で来所した子どもも、「来てよかった!」「楽しかった!」「また来たい!」と笑顔で帰っていく姿が多く見られます。



渡辺

「こどものいえメイプル」には、生活の基盤となる『家庭』にさまざまな課題を抱える小学校1年生から高校3年生までの子どもたちが来所してきます。明和町役場が保護者との相談窓口となりメイプルと子どもたちが繋がります。子どもたちの背景には、家庭の事情から入浴が困難な子、孤食が続いてしまう子、3食の食事が難しい子、兄弟・姉妹が多い子など事情は様々です。私たちは、子どもたちにとって「もう一つの家庭」となるような人間関係や環境を提供することを最優先にしています。子どもを通じて家庭にも関わり、保護者とはお迎え時にその日の出来事や様子を伝えこ

コミュニケーションを図っています。また、保護者からの相談事や困り事には、明和町役場や学校、児童相談所にもご協力いただき、解決に向けた橋渡しをしています。「明日も来ていい?」「次は卵焼きが食べたい」など、そんな「また来たい」と思えるような関わりが私たちの活動です。

Question 2 子どもたちが「ここは安心できる」と感じられる場にするために、何を心がけていますか。



市村



中村

まずは、子どもにとって安心・安全な居場所となるよう、「ありのままの姿」を受け入れています。こらんだむを初めて訪れることは、子どもにとって大きな勇気の一步です。そこで私たちは、現在の様子や過ごし方を丁寧に聞き、一人ひとりのペースに合わせて、誰かと時間を共有できる場をつくっています。こらんだむは「自分らしく、自分の好きなことをして過ごせる場所」です。動画を見て過ごすことも、部屋を歩き回ることも、その子にとって必要な時間と捉えています。性別や発達特性で判断するのではなく、「ひとりの人」として尊重し、共に過ごす仲間として受け入れます。来所や退所の時間は自由ですが、ほとんどの子どもが初日から1日を通して過ごし、その日のうちに次の来所日を決めて帰ります。「明日も来たい!」と保護者に伝える子も多く、そんな子どもの笑顔を見て、保護者の表情にも自然と笑顔が戻っていきます。



渡辺

メイプルでは「家庭的な日常」を大切にしています。時間割は設けず、来所後はそれぞれが学習をしたり、ゲームをしたり、友人と外で遊んだり、静かに過ごしたりとそれぞれの過ごし方を過ごしています。また、生活習慣を身につけるための働きかけも大切にしています。歯磨きや食事、入浴など、日常の中で自然に身につけられるようにスタッフが声をかけ、一緒に取り組んでいます。無理のない関わりの中で少しずつ安心感に繋がっていきます。

私たちスタッフは子どもとの関わりの中で「あたたかくありのままを受け入れること」「子どもそれぞれの背景を理解し寄り添い関わること」を大切にしています。また食事では、一緒にご飯を食べ会話を大切にしています。入浴ではプライベート空間の確保をしています。こうした安心の積み重ねが信頼関係の土台となり、「ありのままの自分を受け入れてくれる」という気持ちを作り出しています。

Question 3 子どもたちを継続的な支援につなげるまで、どのように伴走していますか。



市村



中村

朝の来所人数が少ない時間帯や昼食時など、落ち着いて話せるときに1対1で丁寧に関わる時間を大切にしています。ある子どもから「今さらだけど、学校に行ってみたい」という言葉を聞くことができました。初めて登校する日は、教室まで同行し、学校と連携しながらサポートを行いました。今では週に1回、自分の力で登校し、勉強や運動に取り組めるようになっていきます。こらんだむでの活動には、子どもたちにとって“初めての挑戦”がたくさんあります。「できた!」という瞬間を「すごいね」「頑張ったね」と認めることで、次の「こうしたい!」という意欲につなげています。また、活動を支えるうえでボランティアスタッフの存在は欠かせません。子どもたちが安心して過ごせるよう見守りやサポートを行うほか、自分の趣味や経験を活かして関わられるよう工夫しています。こらんだむに関わるみんなで、温かく居心地のよい時間をつくっています。



渡辺

メイプルの支援は、一度の関わりで終わるものではありません。日々の生活を共にしながら、子どもの変化を丁寧に見守り続けています。例えば、入浴を嫌がっていた子が泡風呂やおもちゃを自由に選び楽しく過ごせるようになり、食事の準備を手伝う中で「今日のごはん何?」と自然に会話が生まれ、そうした小さな変化の積み重ねが自信に繋がります。保護者との直接的なやりとりは、主に明和町役場の職員が担っています。私たちは役場と連携し、子どもの生活や感情の変化を共有し合うことで、家庭支援へとつなげています。今後は役場と情報共有しながら、子ども一人ひとりにあった支援計画を作成していくことを目指しています。そのうえで、子どもの成長や変化、SOS にいち早く気づき寄り添える関係性を築いていきたいと考えています。



こらんだむ

～子どもがりのままでいられる居場所～

ありのままの子どもを受けとめ、それぞれが自立へとつながる場を目指して、2016年に前橋市表町に開所しました。2021年には官民連携により太田市にも拠点を開設し、地域の支援のもとで多くの不登校の子どもたちが共に学び、成長しています。子どもたちが安心して過ごせる居場所として、また主体的にさまざまなことへ挑戦できる学びの場として、日々の活動を重ねています。



データから見る こらんだむ

延べ支援児童・生徒数

2786人

延べボランティア数

259人

延べ協働支援数

635回



通所対象の方

学校に行きづらさを感じている小中高生(18歳程度)までの子ども。また、人との繋がりや居場所を必要としている子どもも対象となります。

こらんだむとして大切にしていること



フリースクールこらんだむは、3ステップを踏んで、不登校の子どもたちと向き合っています。

1人1人に寄り添う伴走支援を前提とした安心安全な居場所をつくり、ICT環境を活かした学習支援や大学・企業・団体と連携したプログラムを実施し、子どもの自己肯定感を育むとともに社会的自立に繋がるプログラムを提供しています。



こらんだむの1日



みんな集まれ!

「おはよう」スタッフと元気な挨拶を交わし、1日がスタート!

10:00



それぞれランチ

「いただきます!」楽しいランチタイムに会話も弾みます。

12:00

15:00

17:00



フリータイム

子どもたちが自分で活動を決めて自由に過ごします。



19:00

プログラムタイム

子どものニーズに合わせ、多彩な内容で実施しています。子どもが主体的に進められるようスタッフもサポートします。

Place: 前橋市表町2丁目3-6 前橋第一ビル4階

前橋校
Maebashi



シンマエバシカルタ

地元・前橋の魅力を伝えるカルタを制作しました。完成後には臨江閣でカルタ大会を開催し、子どもたちが自分たちの作品を通じて地域の魅力を発信しました。

こんな事に取り組んでいます!



プログラミング教室

普段から親んでいるゲーム「マイクラフト」を使ってプログラミングを学びました。試行錯誤を重ねながら粘り強く取り組み、自ら考え、形にしていける力を育むことができました。

Place: 太田市高林東町1302 南ふれあいセンター内

太田校
Ota



手話カフェ × こらんだむ

スターバックス様のご協力で、手話カフェを開催しました。

手話を通じて、相手を思いやる気持ちや伝える力が育まれる、あたたかな時間になりました。

こんな事に取り組んでいます!



さつまいも掘り体験

地域の方々のご協力のもと、さつまいも掘り体験を開催しました。子どもたちは土の感触を楽しみながら一生懸命に掘り進め、収穫の喜びを味わっていました。



SAME BOAT

～「ひとりじゃない」と思える日～

学校に行きづらさを抱える子どもとその保護者を対象に、当事者同士が安心して交流できる機会を提供するイベントです。赤城山麓の豊かな自然の中で、対話や体験活動を通じてつながる無料ワークショップとして実施しています。2016年から13回にわたって開催し、延べ500組以上の群馬県内在住の不登校の親子に、つながる場として新しい選択肢を提供してきました。



データから見る SAMEBOAT

児童・生徒数

23人

保護者数

19人

ボランティア数

42人

参加対象の方

不登校など、学校に行きづらさを抱えている
18歳以下の子ども及び保護者。(参加無料)



プログラムの特徴

point

1

似た状況の
当事者同士と共に

子どもも保護者も、自分と似た立場や経験をもつ人と時間を過ごすことで、自然と安心感が生まれます。

point

2

一人ひとりに
丁寧に寄り添う

子ども一人ひとりにボランティアが寄り添い、気持ちを受け止めながら一緒に時間を過ごします。

point

3

自然豊かな森で
様々な体験を

普段は立ち入ることのない森の中で、さまざまな体験を通して、心を落ち着ける時間を過ごします。

当日のようす



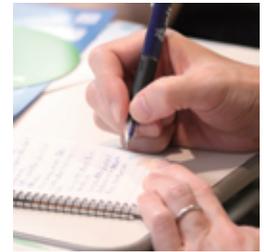
◆◆◆ 子どもプログラム ◆◆◆

大人2人と子ども2人のグループを作り、野外を散策しました。焼きマシュマロや宝探し、こらんだむの子どもたちが運営するブースなどを用意し、参加した子どもたちは笑顔で楽しい時間を過ごしました。



◆◆◆ 親・一般プログラム ◆◆◆

「踊り場のある人生を歩む」と題し、保護者講演会・交流会を開催しました。当事者としての経験を持つ講師から、不登校をどのように受け入れ、子どもと向き合ううえで大切にしてきたこととお話しいただきました。



参加者の感想



子どもの感想

とても親切で楽しかったです。ありがとうございました！

いっぱい話せて面白かったです。ありがとうございました。

たのしかったです。またカードゲームやろうね！

すっごくたのしかったです。またあえたら、あそぼうね！

子どもが楽しそうでよかったです。ありがとうございました。

保護者の感想

講演会に参加することができ、良かったです。このようなお話がもっと多くの方に伝わるといいなと思いました。

家庭の中でどうしようと色々模索していましたが、イベントに参加してプラスに考え、今を子どもと楽しむことを考えようと思えました。ありがとうございました。



めいわ こどものいえ **メイプル**

～地域の子どもは地域で支える～

家庭と学校のあいだで安心して過ごせる“第三の居場所”として、令和6年4月1日に群馬県邑楽郡明和町に開所しました。手づくりの温かい食事の提供や、学習・生活習慣のサポートを行い、地域ボランティアと共に親子を支援しながら、子どもの社会的自立を目指しています。なお本事業は、群馬県邑楽郡明和町からの委託を受けて実施しています。



データから見るメイプル

延べ支援児童・生徒数

158人

延べボランティア数

163人

延べ協働支援数

25回



通所対象の方

明和町が支援の必要があると判断した子ども（小学生から高校生）が対象になります。

大切にしていること

メイプルには、さまざまな背景をもつ子どもたちが通っています。一人ひとりが抱える課題を丁寧に理解し、個性を尊重しながら関わっています。また、食事づくりや掃除などの手伝いを通して基本的な生活習慣を身につけ、「生活する力」や「生き抜く力」を育むことを大切にしています。

生き抜く力を育む、4層モデル



日々の過ごし方



ただいま！

子どもたちと元気に挨拶を交わし、学習からスタート！

14:00



おやつ

ワクワク！おやつタイム！

16:00



夕食

みんなで囲む、楽しい夕食タイム

17:40

15:00



自由時間

一人ひとりが思い思いに楽しく過ごします。

17:00



お風呂時間

生活習慣のひとつとして、あたたかい入浴もほっと一息出来るようサポート

特色のある過ごし方



イベント実施

七夕やハロウィン、クリスマス会など、季節を感じられる行事を開催しています。飾りつけやゲームの準備には子どもたちも一緒に参加し、みんなで楽しい時間を過ごしています。



地域交流

地域の方々のご協力のもと、さつまいも掘りや焼きまんじゅうづくりなど、さまざまな体験活動を実施しています。こうした活動を通じて、人とのつながりを感じるとともに、子どもたちにとって貴重な学びの場となっています。

こんな事に取り組んでいます！



食育体験

調理体験を通して、みんなで力を合わせながら、食の楽しさや大切さを学んでいます。ボランティアの方々にもご協力いただき、餅つきやうどん作りなど、さまざまな調理にも挑戦しています。



スマイルスタジオ

全国の「子ども第三の居場所」拠点とオンラインでつながり、クイズやゲームなどを通して交流しています。楽しみながらお互いを知り合い、全国の仲間とのつながりを感じられる大切な時間になっています。

HAND 

ハンズ

～一人ひとりに寄り添う学びと体験～

群馬県母子寡婦福祉協議会より運営委託を受け、群馬県内のひとり親家庭児童を対象とした無料学習支援教室（ハンズ）を運営しています。令和6年度は14名の小中学生がハンズに参加し、20名のボランティアスタッフと共に全19回の学習支援教室を開催することができました。クリスマス会やレクリエーションなども開催し、子どもたちがつながりを感じながら安心して過ごせる環境づくりに力を入れ、活動を行いました。

データから見るハンズ

延べ支援児童・生徒数 延べボランティア数

103人 180人

活動の様子

多くの子どもたちがこの場に集います

みんなで関係性と学びを育む

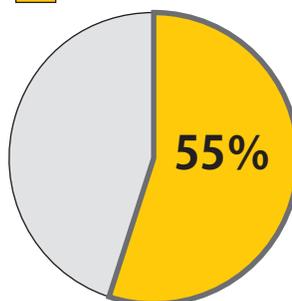
じっくり一人ひとりと関わり過ぎします

レクリエーション活動
クリスマス会の様子

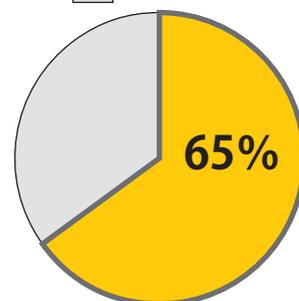
子どもたちの変化

- ・ボランティアさんが優しく教えてくれて嬉しかった。
- ・学習だけでなく、友達もできて活動が楽しかった！
- ・毎回楽しみにしていて自分から「行く！行く！」と楽しく穏やかな場所になり、大変感謝しています。（保護者）

■ 以前よりも出来るようになった □ 変わらない

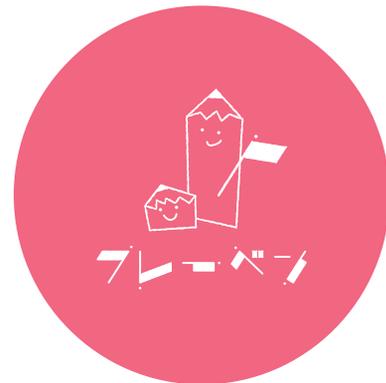


自分の意思を周囲に伝える力



協調性

フレーベン 児童養護施設児童への個別学習支援



令和6年度は1名の中学生3年生と学習支援ボランティアをお繋ぎすることができ、9回の支援を行いました。学習支援ボランティアが指導できる科目と子どもが指導を希望する科目をマッチングし、効果的な学習サポートを行うことができ、無事高校進学を果たすことができました。活動は縮小傾向にありますが、今後も児童養護施設からのニーズに応えてまいります。

ノートムービーズ 教員撮影による学習動画配信



インターネット上で教員免許所有者が撮影した学習動画サイトをひきつづき公開し、令和6年度は26,773回の視聴回数がありました。今後も子どもがつまずきやすい箇所を中心に新しい動画を撮影し、順次公開していくことで、子どもたちの自主学習サポートに取り組んでまいります。

New Division 2025年度からの新しい取り組み 「ユースセンターこらんだむ」運営開始

ユースセンターとは学校や家以外の「中高生の第3の居場所」として、全国的に広がり始めています。放課後や休日に気軽に立ち寄って過ごすことができる場所であり、くつろいだり、勉強したり、趣味に打ち込んだりと、自分のペースで過ごします。また、ロールモデルとなる大人との出会いや、ボランティア活動、チャレンジできる機会も提供され、多様な学びと成長をサポートする役割も期待されます。



また、フリースクールを卒業した子どもたちが、進学などで孤立することなく、自ら歩み続けられるよう支援するため、気軽に来れる仕組みとしても有効であると考えています。安心・安全な空間の中で、放課後のひとときに休息や挑戦のきっかけを得られる場を目指し、利用者主体の運営や機会の創出にも取り組んでまいります。

フォトギャラリー

紹介しきれなかった
活動の様子を
ご紹介します。



あなたも

TASA EDUCATION MEMBER

ターサの仲間になろう！

「一緒に社会創りませんか？」

私たちターサ・エデュケーションでは、一緒に活動する仲間を募集しています！

総勢 200 名以上の仲間が、私たちの団体に関わっています。多様な関わり方があるからこそ、自らが選んで活動できることが魅力です。ぜひ、あなたの力を子どもたちのために貸してください！



寄付を通じて支援

DONATION Member

都度寄付や月額寄付を受け付けております。寄付決済プラットフォームよりお申込みください。寄付者限定特典も準備しております。

<https://syncable.biz/associate/tasa-education/donate>

当法人では、決済プラットフォームシンカブルを通じて寄付を受け付けております。



Syncable

VISA



JCB

AMERICAN EXPRESS



クレジットカード対応ブランド



寄付者 特典

- ◆実績報告書を送付
- ◆実績報告会無料招待
- ◆ボランティア情報を優先案内
- ◆オリジナルステッカーを送付

VOLUNTEER Member

ボランティアで支援



当法人が運営する活動にて随時ボランティアを募集しています。空いた時間に楽しく！子供と関わってみませんか？ボランティアプラットフォーム「アクティボ」より、確認の上お申込みください。

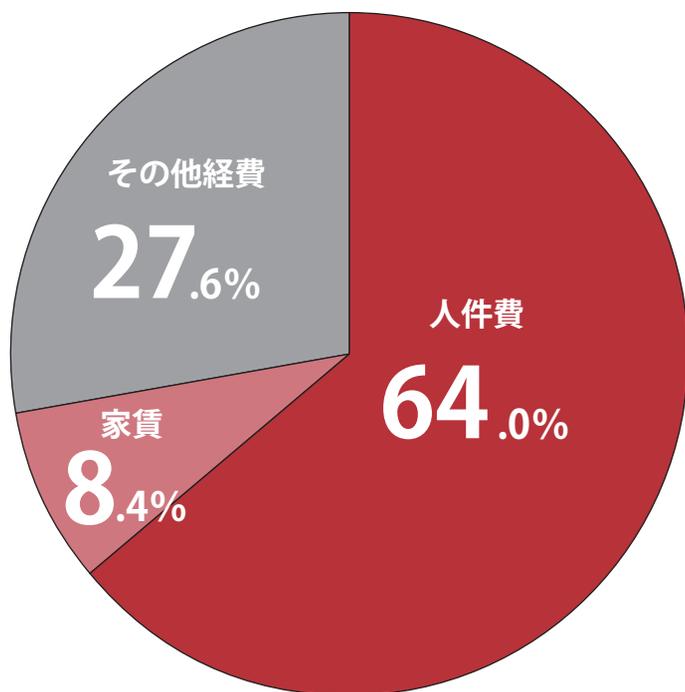
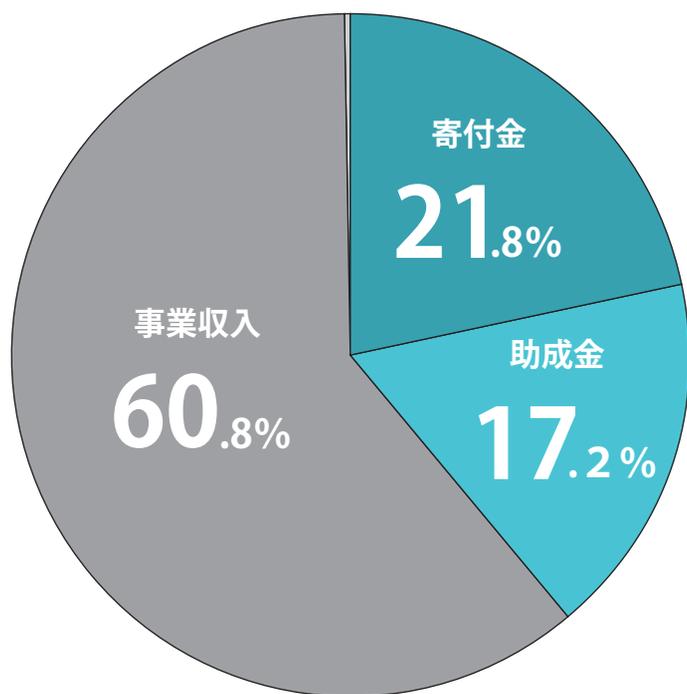
募集ページ：

<https://activo.jp/users/75342>



2024 年度 会計報告

2024 年度は個人や企業からの寄付やいくつかの助成金をいただけたため、自主事業の充実や組織基盤整備に取り組むことができました。今後より支援を広げていくためには、支援人材の確保と育成が必要不可欠です。そのためには、まだまだ資金が必要です。皆様のひきつづきのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



収入

寄付金 7,091,083円 21.8%

個人・法人寄付、ボランティア評価益

助成金 5,609,000円 17.2%

赤い羽根、檉の芽会、群馬県・太田市フリースクール補助など

事業収入 19,776,775円 60.8%

フリースクール運営事業、ひとり親家庭学習支援事業、明和町委託事業

その他収入 66,129円 0.2%

会費、利息収入など

収入合計 32,542,987円

支出

人件費 17,621,898円 64.0%

ボランティア受入評価費用 3,397,315円
を含む

地代家賃 2,314,715円 8.4%

拠点を借りるための費用

その他経費 7,970,094円 27.6%

消耗品・水道光熱費・教材費・ボランティア
交通費等

支出合計 27,545,543円

※ボランティア受入評価益、評価費用とはボランティアによる労働力を金額評価することで、NPO 法人の真の活動規模を評価しようとする項目

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション

〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町1291番地6

TEL 027-226-5243 Mail info@tasa-education.com

WebSite <https://tasa-education.com>